

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		鹿島市立能古見小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である			
1 前年度 評価結果の概要		1 学力向上 基本的な学習習慣の確立ができ、基礎基本の定着につながり、学習を楽しんでいる児童が増えた。思考・判断・表現の領域の強化はさらに必要である。 2 体験活動・健康・体力づくり 地域・自然及び地域等人材の活用は、年間計画に沿ってできている。体育の推進も「体育学習カード」「8の字チャレンジ」へ全校的な参加もできている。外遊びも積極的に行い、体力もついてきている。児童の主体性を高める魅力ある活動づくりが課題である。 3 心の教育 「挨拶」「無言清掃」は工夫しながら継続しており、定着が見られる。日々の観察や相談、Q－Uアンケートや保護者アンケートなどを生かし、相手を尊重し大切にする「人権教育」の充実に向けて継続して取り組む必要がある。特別支援教育ではスムーズな交流と実態に応じたきめ細かな指導を引き継ぐ。 4 教育環境 空調設置稼働による光熱費の増加については、校内においても、日常的に節電や節水を呼びかけエアコン使用規定を徹底させることで、調整を図ることができた。また、美しく使いやすい職員室づくりを進めることができた。					
2 学校教育目標		新たな時代を切り拓き、共に生き抜く児童の育成 ～かしこく・正しく・たくましく～					
3 本年度の重点目標		能古見っ子の「学力向上」と「人権意識の向上」					
4 重点取組内容・成果指標		5 最終評価					
(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上 ＜かしこく＞	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイブランの成果指標を達成した教師80％以上	・教職員間でのマイブランの共有及び実践 ・学びタイムの継続的な実施と強化	B	・学びタイムを後期から取り組み、後半からは、タブレットも活用した。 ・マイブランの達成については、コンプリートタイムで、分かったことを伝える場を設定することができなかったの、来年度の課題として校内研究で取り組む。	B	・マイブランを立て、努力されている様子が分かる。 ・学習検査等の結果を検証し、教師の共通理解を深め、学力向上対策の推進を期待したい。 ・タブレット学習や英語学習など学習が多様化する中、マイプランを設定し、個々だけでなく他職員との共通理解・実践がなされていると感じる。 ・今後も切磋琢磨し、児童の学力向上に向けた取り組みを続けてもらいたい。
	○児童が1時間の授業を大切にし、主体的・対話的に学習に取り組むための授業づくり	○学習過程の工夫により、「授業は、よく分かり、楽しい」と思う児童80％以上	・校内研究として、算数科を中心に実践しながら、他教科へ広げる ・家庭学習の手引きや自学のススメをもとに家庭学習の強化を図る	B	・「授業はよくわかり楽しい」と答えた児童は90％を越えていた。しかし「授業中、自分の考えを発表できている。」という質問への肯定的回答は69％だったので、発問等の工夫をして児童が意見を伝えられる機会を増やす。 ・自学ノートの掲示により内容に工夫が見られる児童もいたが、まだ個人差がある。	B	・よくわかり、楽しい授業がなされている。 ・自学の取組はとてもいいと思う。 ・45分の授業の中で個々の児童の理解度を見極めて、学び続けることの大切さを意識した指導をお願いしたい。 ・授業の理解度を児童自身で発表させることは後々の指導プランを立てる上でも非常に効率的だと思う。今後も自己表現が得意でない児童に対するアプローチを上手く行っていただき、教員と児童の共通理解を深めていただきたい。
●心の教育 ＜正しく＞	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動（相手を尊重し大切にする「人権教育」の徹底）	○学級及び個人の「心のめあてが達成できた」と思う児童80％以上	・各学年で心のめあてを設定し、振り返り ・平和学習や人権教室（年2回）等の実施 ・道徳科の授業の充実を図り、人権意識の向上につなげる ・保護者や地域と連携したふさと体験活動の実施 ・前期GOOD JOBカード、後期「ありがとうの木」 ・感謝の気持ちを伝える取り組み	A	・児童が心のめあてをふり振り返り、達成出来た児童は91％であった。 ・平和学習では、各クラスで戦争や原爆について絵本などを使って紹介し、考えることができた。 ・人権集会では（低・中・高）にわかれ、グループ集会を実施し、絵本や教師による実体験の紹介などで、人権について考えることができた。 ・道徳科の授業の充実のため、地区の教科研究会に参加し、本校で全職員による授業研究会を行うことができた。	A	・人を思いやる気持ちが生まれてよかったと思う。 ・人権学習や集会活動で生命尊重に関する意識が培われている。 ・心の教育の基盤となる道徳指導が適切に行われ、生きる力が身についている。 ・能古見小の児童は、人の気持ちを考えて行動できる児童が多いと感じる。各学年で目標が設定しており、教室や廊下に掲示がなされ自然と認識することができることによって心豊かな情操教育につながっている。 ・心と身体も充実した学校生活を送れるような取り組みを期待します。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめアンケート等で、嫌な思いをしている児童15％以下	・心のアンケート実施（年6回） ・学校生活（いじめ）アンケート実施（年2回） ・Q－Uアンケートの実施（年2回） ・アンケートをもとに個別に教育相談を実施	A	・心のアンケートを毎月実施し、いじめや教育相談など児童のサインを見のがさないように努めた。アンケートや日頃の観察から個別の対応をすぐに取ったことで、悩みを自分で解決し、友達や先生に気軽に相談できる雰囲気づくりができた。1月の心のアンケートでは、「嫌な思いをしている」と答えた児童は、10.6％であった。 ・教育相談週間を、12月に実施したが、来年度は前期・後期各1回設定し子ども一人一人と相談できるようにする。	A	・いじめはした人もされた人も傷つきます。気軽に相談できる雰囲気づくりをしてほしいものです。 ・心のアンケートから児童の実態を的確に把握し、いじめの早期発見やその対応が成果をなしている。 ・アンケート等で、児童が生活しやすい学校の雰囲気づくりをしていただいている。これが「学校・学級は楽しい」と答えた児童の結果につながっている。 ・今後もスクールカウンセラー等と連携していただき児童のよりよいメンタルヘルス保持に努めてもらいたい。
	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「日々目標をもって生活し、将来の夢や希望を持っている」と回答をした児童（小学6年生）80％以上	・縦割り活動を通して、上級生として意識向上と自己肯定感の向上に努める ・児童の主体性と創意工夫による特別活動の実施 ・キャリアパスポートの取組	B	・縦割り活動は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんど実施できなかったが、休み時間に異学年で遊んだり、上級生が下級生のお世話をしている様子は多く見られた。 ・「日々目標をもって生活し、将来の夢を持っている」と回答した児童は94％で、6年生も85％と、目標を達成することができた。行事ごとに、自分の目標を設定し、キャリアパスポートに積み重ねていくことができた。	B	・コロナ禍で縦割り活動ができなかったようですが、今後も続けてほしいです。 ・日々の生活目標をもって学校生活を送る児童の姿がアンケートの結果からうかがえる。 ・縦割り活動による異学年交流は、相手に対する思いやりを醸成することにつながり、運動会等で、上半年が下半年をお世話する姿は微笑ましかったです。 ・少人数の学校だからこそ、より深い交流ができるため、今後もオール能古見小で心豊かな児童育成に取り組んでもらいたい。
●健康・体づくり ＜たくましく＞	●「望ましい生活習慣の形成」	○「学校や家庭で健康に気を付けて、手洗いやうがいに取り組んでいる」児童90％以上 ○「週に3回以上外遊びをする」児童85％以上 ○「一日に3回歯みがきをしている」児童80％以上	・スポーツチャレンジを年間指導計画に入れ、楽しい運動に取り組めるようにし、運動の習慣化を図る ・健康に関する情報を「保健室便り」で伝え、日々の健康チェックや「歯みがきカレンダー」等の記入を通して基本的健康活動の習慣化を図る ・食育月間や給食週間を利用して、食の大切さを呼びかける	A	・週に3回外遊びをする児童86％で目標達成。秋以降、外遊びをしている児童が増えてきたのでよかった。 ・朝ご飯を食べべてきている児童が98％と中間アンケートと比べて高く、給食の残菜も少なかった。児童と保護者の方々の食に関する意識の高さが見られた。 ・一日に3回歯磨きをしている児童は94％と中間アンケートと同等で高い。全校で1年のうち1回以上歯科受診をした児童は65％を超え、保護者の意識も高く、歯科治療だけでなく予防歯科にも努めていることがわかる。	A	・子どもはとにかく外で遊んでほしい。 ・「うがい」「手洗い」の習慣化が身について健康に対する意識が高い。 ・朝ご飯をきちんと食べて登校する児童が95％以上の数値は体力づくりに効果が出ている。 ・生活ががんばりカードなどを通して、児童の生活習慣や健康保持に対する取り組みを家庭と連携して実践できている。今後は、これらが慣性にならず、精力的な取り組みになるような動機付けを期待したい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進 ＜環境づくり＞	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する（月45時間、年間360時間を超えない） ○年休取得7割以上	・日々の始業、終業の時間の記録の可視化を図り、時間外勤務時間の意識化を図る ・週に1日の定時退勤日の徹底 ・各種取組のスリム化を図る	B	・勤務時間を意識して集中して業務にあたることができてきた。月45時間を超えない、年間360時間を超えない超過勤務時間はほぼ守られた。 ・年休取得は、平均で約6割の取得はできていた。 ・学校行事は、スリム化を図り設定された時間内でよりよい活動につなげることができた。	B	・勤務時間を意識し、集中できたことでよい結果が得られたと思う。 ・勤務時間に対する教職員の意識改革が向上しつつある。 ・教職員のモラルが向上し健全な学校運営ができている。 ・コロナ等で厳しい面もあるが、子ども達の安定した学校生活のためにも、ワークライフバランスの構築を続けていただきたい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実 ○地域との連携	○「個に応じたきめ細やかな指導」「交流学習の充実」 ○「地域人材を活用した取り組みの充実」	○特別支援に関する専門性が向上した教員80％以上 ○「学校は、保護者や地域の方と協力して子どもの指導や行事開催に取り組んでいる」と回答した割合80％以上	○気になる児童の共通理解の時間を職員連絡会等で定期的に設置 ○外部講師を招聘しての特別支援教育に関する研修会を年2回以上実施 ○学習や行事等で地域の人をゲストティーチャーに迎える	A	・気になる児童については、特別支援学校の巡回相談を活用したり、教育センターから講師を招いて児童の実態に即した支援について共通理解し、対応することができた。また、定期的に共通理解をする時間を設置したことで、特別支援教育について理解し取り組んだ教員は100％であった。 ・新型コロナウイルスもあったが、積極的に外部人材を活用した行事等を実施することができた。「学校は、保護者や地域の方と協力して子どもの指導や行事開催に取り組んでいる」と回答した割合は、95％であった。	A	・職員と子どもが1対1で授業ができる環境はとても良いと思う。 ・特別支援教育の研修が充実し、気になる子の指導に活かされている。 ・地域人材を活用した教育活動は、マスコミにも取り上げられ、大きな成果が見られた。 ・来年度からのコミュニティースクール発足に向け、地域に眠っている人的資源・物的資源の発掘に期待している。 ・気になる児童の職員間の共通理解は心強く感じる。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育							
5 総合評価・ 次年度への展望	今年度の学校評価については、すべての項目において、概ね達成～十分達成であった。重点目標としていた「学力向上」については、学年差があり継続して取り組む必要がある。基幹調査から分析した児童が身に付けている分野、不十分な分野を再度確認し、次年度につなげ、高めていく方法を模索する必要がある。「人権教育」については、人権・同和教育担当を中心に、全学級で取り組んできたことが少しずつ実になっている。心の教育は学力向上と常にセットにあると考える。児童の育った心を大切にして、それを自信につなげられるよう、対策をとっていく必要がある。また、来年度からコミュニティ・スクールになることから地域の物的・人的財産の発掘は今後の学校教育の活性化に大に関わってくるものと考ええる。						